

金子みすゞ童謡の中国語訳の試み (三)

樊

穎

大学院の時、古典文学の授業で先生が金子みすゞの童謡を紹介されたのがきっかけで、全集を読みはじめ、みすゞの童謡にすっかり心を奪われてしまった。その後、自分の言葉で、自分が感じた金子みすゞを中国語で伝えたいと思い、みすゞの詩の中国語の翻訳を始めたのである。

今回、キーワードとして選んだのは、「墓」「神」「仏」の三つの言葉である。

「墓」と言えば、「死」を連想する。一般的に暗い、悲しい、寂しい、圧迫されるような重々しいイメージが強いが、みすゞが描いた「死」は終わりではなく、新たな始まりであり、透明感のある温もりを感じさせるものである。例えば「繭とお墓」には、蚕が繭に入って、美しい蝶に変身し、「人はお墓へ／はいます、／暗いさみしい／あの墓へ。／／そして、いい子は／翅が生え、／天使になって／飛べるのよ。」と書いてある。まるで目の前に映像が映されているかのような描写であり、小さな子供の魂が清らかな光を放ちながら、背中に大きな透明な翅を静かに広げている様子が見えたような気がした。「墓」「死」は新たな再生を遂げる過程であると捉えられている。「死後の世界」も人間の世界と隣り合わせであり、切っても切れないつ

ながりを持つている。例えば「墓たち」には、「墓場のうらに、／垣根ができる。／墓たちは／これからは、／海がみえなくなるんだよ。／／こども、こどもが、乗っている、／舟の出るのも、かえるのも。」とあるように、「死後の世界」という違う空間から人間の世界をのぞいたり、万端な思いを馳せたり、子々孫々大事な人を見守ったりすることができる。

面白いのは、みすゞの詩における「仏」と「神」についてのイメージの違いである。「仏」は「葬式」「お仏壇」などと関連し、「お供え物」「ご先祖様」「日常の勤行」などのように、日常的で、身近で、感情と気持ちを感じてくれる優しい存在であるのに対し、「神」については、小さいもの、弱いもの、可憐で美しいもの、たとえば「花」「蜂」「こども」「天使」などと関連することが多く、弱いものを遠くから見守り、愛を注ぐ存在のようである。また、「神」の世界は「空の向こうに」ある、何とも言えぬ美しい世界である（「万倍」「山と空」）のに対し、「仏」の国は、「ちがうところへゆくのなら、／わたくしたちの行くところは、／一ばんひくいところなのよ。／／一ばんひくいところだつて、／私たちには行けないの。」と書いたように、仏教で説いた「地獄」の構図を連想するような「地下の世界」として意識しているようである。今回の詩の翻訳を通して、みすゞの死生観や宗教についての観念の一斑を窺うことができたと考えられる。翻訳に使用したテキストは、JULA出版局から出版されている『金子みすゞ童謡全集』（六冊）である。

(一) おとむらいの日

お花や旗でかざられた、
よそのとむらい見るたびに、
うちにもあればいいのに、と、
こないだまでは、思ってた。

だけでも、きょうはつまらない、
人は多ぜいいるけれど、
たれも対^{あいて}手にならないし、
都から来たおばさまは、
だまって涙^{なみだ}をためてるし、
誰^{なれ}も叱^{しか}りはしないけど、
なんだか私^{わたし}は怖^{こわ}かった。
お店で小さくなつてたら、
家^{うち}から雲^{うみ}が湧^わくように、
長い行列、出て行った。

あととはなおさら、さみしいな、
ほんとにきょうは、さみしいな。

(二) 葬礼的日子

鲜花彩旗装点漂亮，
每当看到别家的葬礼，
都希望自己家也有就好了，
直到前不久，都还这样想。

可是，今天好无聊，
家里人很多，
却谁都不理我，
城里来的阿姨，
默默噙着泪，
谁也没骂我，
我却觉得好害怕。
躲在店角，缩成一团，
看着长长的出殡队列，
像绵绵不断的云团，涌出家门。

于是觉得更寂寞，
今天真是好寂寞。

(二) 天人

ひとり日暮れひぐの草山で、
 夕やけ雲をみていれば、
 いつか参った寺のなか、
 くらい欄間らんまの彩雲あやぐもに、
 笛ふを吹いてた天人の、
 やさしい眉まゆをおもい出す。

きつと、私わたしの母さんも
 あんなきれいな雲のうえ、
 うすい衣着べくて舞まいながら、
 いま、笛吹ふいているのだろ。

夕やけ雲をみていれば、
 なんだか笛の音がする、
 かすかに遠い音がする。

(二) 天女

夕阳西下的山坡，
 一个人看着晚霞，
 忽然想起曾经参拜的庙宇，
 黯淡的格窗绘着绚烂的彩云，
 吹着短笛的天女
 那温柔的眉目。

我的母亲也一定
 在那美丽的彩云间，
 身披纱衣，翩翩起舞，
 现在正吹着短笛吧。

一个人看着晚霞，
 仿佛听到袅袅笛音，
 缥缈悠远。

(二) お葬ごっこ

お葬ごっこ、

お葬ごっこ。

堅ちゃん、あんたはお旗持ち、

まあちゃん、あんたはお坊さま、

あたしはきれいな花もつて、

ほら、チンチンの、なあも、なあも。

そしてみんなで叱られた、

ずいぶん、ずいぶん、叱られた。

お葬ごっこ、

お葬ごっこ、

それでしまいになっちゃった。

(三) 葬礼游戏

葬礼游戏、

葬礼游戏。

小坚，你拿旗，

小真，你来扮法师，

我拿着漂亮的花束，

开始啦，铛铛……南无、南无阿弥陀佛。

结果大家都挨了骂，

狠狠地、狠狠地、挨了骂。

葬礼游戏、

葬礼游戏、

到此结束。

(四) 楊やなぎとつばめ

無事むじでいたかと

川かわやなぎ、

若わかいつばめに

いいました。

ふたり啼ないてた

その枝えだよ、

ひとりひとりは旅たびで

死しにました。

若わかいつばめは

もの言ことわず、

ついと水みづの面おもてを

ゆきました。

(四) 杨柳やなぎ与飞燕

你们平安无事吗？

河堤杨柳

向年轻的飞燕

轻声询问。

曾经成双啼叫的

熟悉的枝头，

一只飞燕丧生旅途，

不再复返。

年轻的飞燕

沉默无言，

一次次低飞

掠过水面。

(五) 花火

あがる、あがる、花火、
 花火はなにに、
 やなぎと毬まりに。

消える、消える、花火、
 消えてはなにに、
 見えない国の花に。

(五) 烟花

上升、上升、烟花、
 烟花像什么？
 垂柳和彩球。

消失、消失、烟花、
 消失后又成为什么？
 眼睛看不见的国度的花朵。

(六) 繭とお墓まゆ はか

蚕は繭にかいこ まゆ

はいります、

きゆうくつそうな

あの繭に。

けれど、蚕は

うれしかろ、

蝶々ちょうちょうになつて

飛べるのよ。

人はお墓へ

はいります、

暗いさみしい

あの墓へ。

そして、いい子は

翅はねが生え、

天使になつて

飛べるのよ。

(六) 蚕茧和坟墓

蚕儿会钻进

蚕茧里，

那又小又挤的

蚕茧。

可是，蚕儿

很高兴，

因为会化为彩蝶

轻盈飞舞。

人会走进

坟墓里，

那阴暗孤寂的

坟墓。

于是，好孩子们

会生出双翅，

成为天使

轻盈飞舞。

(七) 蜂と神さま

蜂はお花のなかに、
 お花はお庭のなかに、
 お庭は土塀どべいのなかに、
 土塀は町のなかに、
 町は日本のなかに、
 日本は世界のなかに、
 世界は神さまのなかに、
 そうして、そうして、神さまは、
 小ちやな蜂のなかに。

(七) 蜜蜂和神

蜜蜂藏在花朵里，
 花儿开在庭院里，
 庭院围在土墙里，
 土墙建在城市里，
 城市位于日本，
 日本属于世界，
 世界属于神，
 然而、然而、神呢？
 就在小小的蜜蜂里。

(八) 花のたましい

散ったお花のたましいは、
み仏ほとけさまの花ぞのに、
ひとつ残らずうまれるの。

だって、お花はやさしくて、
おてんとさまが呼ぶよぶときに、
ぱつとひらいて、ほほえんで、
蝶々ちようちようにあまい蜜みつをやり、
人ひとにや匂においをみなくれて、

風がおいでとよぶときに、
やはりすなおについてゆき、

なきがらさえも、ままごとの
御飯ごはんになつてくれるから。

(八) 花朵的灵魂

飘散的花朵的灵魂，
都重生在神佛的花园，
一朵也不会落下。

因为花儿们温柔和善，
太阳一召唤，
便舒展花瓣、绽放笑颜，
送给蝴蝶甜美的蜜汁，
带给人们温馨的香气，

清风一召唤，
便顺从地随风飘散，

连凋零的花瓣，也会成为
过家家时的美味。

(九) 金魚のお墓はか

暗い、さみしい、土のなか、
 金魚はなにをみつめてる。
 夏のお池の藻ものはなど、
 揺ゆれる光のまぼろしを。

静かな、静かな、土のなか、
 金魚はなにをきいている。
 そつと落ち葉の上をゆく、
 夜のしぐれのあしおとを。

冷たい、冷たい、土のなか、
 金魚はなにをおもってる。
 金魚屋の荷のなかにいた、
 むかしの、むかしの、友だちを。

(九) 金魚的坟墓

阴暗的、孤寂的地下，
 金魚在凝望着什么呢？
 那夏日池塘水藻的花、
 和摇曳的日光的幻影。

寂静的、寂静的地下，
 金魚在倾听着什么呢？
 那在落叶上轻盈跳跃的
 寒夜阵雨的脚步声。

冰冷的、冰冷的地下，
 金魚在怀念着什么呢？
 仍留在金魚店货架上的
 那昔日的、昔日的好友。

(十) 草原の夜

ひるまは牛がそこにいて、
青草たべていたところ。

夜ふけて、

月のひかりがあるいてる。

月のひかりのさわる時、
草はすすとまた伸びる、
あしたも御馳走してやると。

ひるま子供がそこにいて、
お花をつんでいたところ。

夜ふけて、

天使がひとりあるいてる。

(十) 草原之夜

白天牛儿在那里
吃着青草。

夜幕降临，

月光轻移脚步。

月光所到之处，
小草唰唰地向上长，
明天又是牛儿的美味。

白天孩子们在那里
摘采鲜花。

夜幕降临，

天使独自漫步。

天使の足のふむところ、
かわりの花がまたひらく、
あしたも子供に見せようと。

天使的脚步所到之处，
鲜花重新绽放，
明天再给孩子们展示笑颜。

(十一) お仏壇

お背戸せとでもいだだ橙だいだいも、
町のみやげの花菓子はながしも、
仏さまほとけのをあげなげりや、
私わたしたちにはとれないの。

だけど、やさしい仏さま、
じきにみんなに下さるの。
だから私はていねいに、
両手かさねていただくの。

家うちにやお庭はないけれど、
お仏壇にはいつだって、
きれいな花が咲さいてるの。
それでうち中あかるいの。

そしてやさしい仏さま、
それも私にくださるの。
だどこほれた花びらを、
踏ふんだりしてはいけないの。

(十一) 佛龕

后院摘来的橙子，
城里买来的花式点心，
不先敬过佛，
绝对不能碰。

不过，和蔼的佛，
会马上赐还给我们。
所以我恭恭敬敬，
双手接过仔细品味。

家里没有花园，
但佛龕前却总是，
供奉着美丽的鲜花，
让屋里骤然生辉。

于是，和蔼的佛，
也会把鲜花赐还给我。
所以凋零的花瓣，
也绝对不能踩。

朝と晩ばんにおばあさま、
いつもお灯明あかりあげるのよ。
なかはすっかり黄金きんだから、
御殿ごてんのように、かがやくの。

朝と晩ばんに忘れわすれずに、
私もお礼をあげるのよ。
そしてそのとき思うのよ、
いちんち忘れていたことを。

忘れていても、仏さま、
いつもみていてくださるの。
だから、私はそういうの、
「ありがと、ありがと、仏さま。」

黄金きんの御殿ごてんのようだけど、
これは、ちいさな御門ごもんなの。
いつも私わたしがいい子なら、
いつか通とつてゆけるのよ。

每天早晚，
奶奶都会敬上香烛。
佛龕里金光一片，
仿佛宫殿一样金碧辉煌。

每天早晚，我也牢记不忘，
在佛龕前跪拜。
那时也总会想起，
曾有一天忘记跪拜行礼。

即使忘记跪拜，
佛也总是保佑着我。
所以，我对佛祖说：
『谢谢您，谢谢您，佛祖。』

佛龕像是金色的宫殿，
其实却是小小的关口。
只要我一直都做乖孩子，
将来就能顺利过关。

(十二) 仏さまのお国

おなじところへゆくのなら、
み仏さまはだれよりか、
わたくしたちがお好きなの。

あんないい子の花たちや、
みんなにいい唄うたかせてて、
鉄砲てつぱうで射うたれる鳥たちと、
おなじところへゆくのなら。

ちがうところへゆくのなら、
わたくしたちの行くところは、
一ばんひくいところなのよ。

一ばんひくいところだって、
私たちには行けないの。
それは、支那シナより遠いから、
それは、星より高いから。

(十二) 佛国

如果最终会去同一个地方的话，
比起其它，
佛会更喜欢我们吗？

如果和美丽乖巧的花朵们，
和为大家唱歌，
却被子弹射杀的小鸟们，
去同一个地方的话。

如果是去不同的地方的话，
我们去的，
一定是最低的地方。

或许最低的地方，
我们也去不了。
因为那儿比支那*还远，
那儿比星辰还高。

*注：当時の言葉遣いで「中国」を指す。

(十三) 曼珠沙華

村のまつりは
夏のころ、
ひるまも花火を
たきました。

秋のまつりは
となり村、
日傘のつづく
裏みちに、
地面のしたに
棲むひとが、
線香花火を
たきました。

あかい
あかい
曼珠沙華。

(十三) 彼岸花*

村里的庙会
是夏天，
白天就开始
放烟花。

秋天的庙会
是邻村，
太阳伞一顶接一顶的
后街，
住在地下的
人们，
点燃了
线香烟花。

那火红的
火红的
彼岸花。

*注：「曼珠沙華」、「彼岸花」は中国語で「石蒜」(shí suān)、「龙爪花」(lóng zhǎo huā)と云ふ。

(十四) 万倍

世界中の王様の、
御殿をみんなよせたつて、
その万倍もうつくしい。

——星で飾った夜の空。

世界中の女王様の、
おべべをみんなよせたつて、
その万倍もうつくしい。

——水に映った朝の虹。

星でかざった夜の空、
水にうつった朝の虹、
みんなよせてもその上に、
その万倍もうつくしい。

——空のむこうの神さまのお国。

(十四) 一万倍

把世界上所有国王的宫殿
都加在一起，
比那还要美一百万倍的，

——是繁星点缀的夜空。

把世界上所有女王的衣服
都加在一起，
比那还要美一百万倍的，

——是映射水面的清晨的彩虹。

繁星闪烁的夜空，
映射水面的彩虹，
把这些全部加在一起，
比那还要美一百万倍的，

——是遥远天边的神的世界。

(十五) 墓^{はか}たち

墓場のうらに、
垣根^{かきね}ができる。

墓たちは

これからは、

海^{うみ}がみえなくなるんだよ。

こどもの、こどもが、乗っている、

舟^{ふね}の出るのも、かえるのも。

海^{うみ}辺^{みづ}のみちに、

垣根^{かきね}ができる。

僕^{ぼく}たちは

これからは、

墓^{はか}がみえなくなるんだよ。

いつもひいきに、見て通る、

いちばん小さい、丸いのも。

(十五) 坟墓

墓地后面

要修一道围墙。

一座座坟墓

从今以后

再也不能眺望大海。

再也看不见孩子、孩子的孩子，

乘船出海又平安归来。

海边的路旁

要修一道围墙。

我们也

从今以后

再也看不见那一座座坟墓。

再也看不见，每次路过都喜欢看看的

那最小的、圆圆的坟头。

(十六) 雪

誰も知らない野の果てで、
青い小鳥が死にました。

さむい、さむい、くれ方に。

そのなきがらを埋めようとて、
お空は雪を撒きました。

ふかく、ふかく、音もなく。

人は知らねど、人里の、
家もおともにたちました。

しろい、しろい、被衣着て。

やがてあけゆくあくる朝、
お空はみごとに晴れました。

あおく、あおく、うつくしく。

小さいきれいなたましいの、
神さまのお国へゆくみちを、

ひろく、ひろくあけようと。

(十六) 雪

无人知晓的荒野里，
小小的青鸟死去了。

寒冷的、寒冷的黄昏。

像要掩埋青鸟的尸体，
空中飞雪漫天，

深深的、深深的、无声无息。

无人知晓的村落里，
也在举行葬礼。

穿着雪白的、雪白的孝衣。

清晨将至，次日黎明。
天空彻底放晴，

湛蓝的、湛蓝的，十分美丽。

请为纯洁的幼小的灵魂，
让出通往神的国度的路，

让出宽敞的、宽敞的路。

(十七) 小さなお墓はが

小さなお墓、
 まあるいお墓、
 おじいさまのお墓。

百日紅さるすべりの花が、
 かんざしきよねんになつた。
 去年きよねんのことよ。

きょう来て見れば、
 新しいお墓、
 しろじろと立つてる。

せんのお墓、
 どこへ行つた、
 石屋にやつた。

今年も花は、
 百日紅さるすべりの花は、
 墓の上に散つてる。

(十七) 小小的坟墓

小小的坟墓，
 圆圆的坟头，
 是爷爷的墓。

用百日红的花，
 做成头簪。
 恍然竟是去年。

今日再来，
 新立的墓碑，
 白森森地一片。

旧的墓石，
 到哪儿去了？
 都送去了石料铺。

今年供的花，
 也是百日红，
 飘散在坟头。

(十八) 鯨法会くじらほうえ

鯨法会くじらほうえは春のくれ、
海うみに飛魚とびうおと採れるころ。

浜はまのお寺てらで鳴る鐘かねが、
ゆれて水面みづのをわたるとき、

村むらの漁師りょうしが羽織はおり着て、
浜のお寺てらへいそぐとき、

沖おきで鯨くじらの子こがひとり、
その鳴る鐘かねをききながら、

死しんだ父ちちさま、母ははさまを、
こいし、こいしと泣ないてます。

海うみのおもてを、鐘かねの音ねは、
海うみのどこまで、ひびくやら。

(十八) 鯨鱼法会

鯨鱼法会是春末，
可以捕到飞鱼时。

海边的寺院钟声长鸣，
回荡在水面。

村里的渔夫穿上正装罩衫，
急匆匆赶往寺院，

海里鲸鱼的孩子独自一人，
听着钟声、

为死去的父亲、母亲流泪。
『想你们、想你们。』

海面上，钟声回荡
连绵不绝、无边无际。

(十九) 山と空

もしもお山がらすが硝子がらすだったら、
私も東京わたしが見られましように。

——お汽車で

行った、

兄さんのように。

もしもお空がらすが硝子がらすだったら、
私も神さまがらすが見られましように。

——天使てんしに

なった

妹いものようごとに。

(十九) 山与天空

如果大山是玻璃的，
希望我能看到东京。

——就像坐着火车远去的

哥哥那样。

如果天空是玻璃的，
希望我能看到神。

——就像变成了天使的

妹妹那样。

* 翻訳する際、中国語の文法や表現の特徴を考え、訳文の行の並びや句読点を、より自然な中国語の表現になるよう翻訳者によって改めた。

* テキスト 『金子みすゞ童謡全集』(現代仮名づかい版) 全六冊 JULA出版局 二〇〇三年～二〇〇四年。

原文出典一覧

- (一) 「おとむらいの日」(金子みすゞ童謡全集①) 『美しい町』上 一五六頁)
- (二) 「天人」(金子みすゞ童謡全集②) 『美しい町』下 四八頁)
- (三) 「お葬いごっこ」(金子みすゞ童謡全集②) 『美しい町』下 八〇頁)
- (四) 「楊とつばめ」(金子みすゞ童謡全集②) 『美しい町』下 二〇四頁)
- (五) 「花火」(金子みすゞ童謡全集②) 『美しい町』下 二一七頁)
- (六) 「繭とお墓」(金子みすゞ童謡全集③) 『空のかあさま』上 一二頁)
- (七) 「蜂と神さま」(金子みすゞ童謡全集③) 『空のかあさま』上 二二頁)
- (八) 「花のたましい」(金子みすゞ童謡全集③) 『空のかあさま』上 一六六頁)
- (九) 「金魚のお墓」(金子みすゞ童謡全集④) 『空のかあさま』下 二二頁)
- (十) 「草原の夜」(金子みすゞ童謡全集④) 『空のかあさま』下 八四頁)
- (十一) 「お仏壇」(金子みすゞ童謡全集④) 『空のかあさま』下 一三二頁)
- (十二) 「仏さまのお国」(金子みすゞ童謡全集④) 『空のかあさま』下 一九〇頁)
- (十三) 「曼珠沙華」(金子みすゞ童謡全集⑤) 『さみしい王女』上 七二頁)
- (十四) 「万倍」(金子みすゞ童謡全集⑤) 『さみしい王女』上 九二頁)
- (十五) 「墓たち」(金子みすゞ童謡全集⑤) 『さみしい王女』上 一二二頁)
- (十六) 「雪」(金子みすゞ童謡全集⑥) 『さみしい王女』下 九二頁)
- (十七) 「小さなお墓」(金子みすゞ童謡全集⑥) 『さみしい王女』下 一二六頁)
- (十八) 「鯨法会」(金子みすゞ童謡全集⑥) 『さみしい王女』下 一二八頁)
- (十九) 「山と空」(金子みすゞ童謡全集⑥) 『さみしい王女』下 一五六頁)